

第 57 号

やまじ



令和 2 年度



山梨県保育協議会

目次

保育の質の向上と子育て支援の向上を目指して	山梨県保育協議会会長	廣瀬集一	1
一年を振り返って	山梨県保育協議会保育部会部会長	山本亜紀子	2

特別寄稿

新型コロナウイルス感染症防止対策等への取り組みについて	山梨県子育て支援局子育て政策課長	土屋嘉仁	3
「やまじ」発行に寄せて	山梨県保育所保護者連合会会長	深澤聡	4

甲府市 保育士として	山梨立正光生園保育所	加藤小百合	5
つながっていくということ	第2なでしこ保育園	鶴田美佐保	5
「くるみ愛」	池田くるみの木こども園	久保寺亜矢	6
母親の偉大さ	甲南立正保育園	新美京子	6
「こどもたちの育ちを願って」	豊富保育園	長田てるみ	7
子どもたちの育ちを願って	敷島保育園	塩田千晶	7
「子どもの食事から、家庭と繋がる保育へ」	竜王西保育園	浅利由香	8
コロナ禍の保育で思うこと	豊富保育園	寺田拓矢	8

	南アルプス市	今、思うこと	楡形西保育所	村松美穂	9
		「気になる子」	若草保育園	若尾圭亮	9
		保育士の夢を持ち始めて	八田保育所	土屋沙織	10
		保育園の栄養士として	たちばな保育園	遠藤実紗	10
	山梨市	「日々の保育の中で」	八日市場保育園	前嶋美香	11
		子ども達の育ちを願って	日下部保育園	小河弘美	11
		「強くなれる理由を知った」	窪平保育園	三枝恵	12
		保育士になって	日下部保育園	有泉結菜	12
	甲州市	こころのぬくもり	勝沼保育園	石川雅美	13
		変わることのない保育への想い	たんぽぽこども園	成島晴香	13
		ほっこりしていますか	奥野田保育所	前嶋健一	14
		大学で学んだこと	泉保育園	大塚葉月	14
	笛吹市	「時代の変化と保育」	英保育園	浅川としみ	15
		見上げた空に明るい笑顔を思い浮かべて	石和あら川保育園	菱山智恵子	15
		「子どもの育ちを願って」	山梨英和プレストンこども園	早川江里子	16
		新たな扉を開けて	八代花鳥保育所	野川直子	17
峡南		コロナ禍に思う	常葉保育所	望月みさ子	17

「子どもの良質な睡眠を導く継続的取り組み
～保育所から子ども家庭への働きかけ～」

大切にしていること

コロナ禍の中での運動会を終えて

保育士になって思うこと

県内発表に向けて

アレルギーっ子を育てて

コロナ禍で気付いた
今までの日常生活のありがたさ

「子ども達の育ちを願って」

子どもの育ちを願って

「祖母を想いこれからの自分を思う」

子ども達の発想力

『子どもたちと作った夏の思い出』
～お祭り～

「子ども達にとって良い保育とは」

「母として、保育士として」

前向き・笑顔・チャレンジ

歳を重ねて感じること～巡り巡って～

初心を忘れず

久那土保育所 笠井美奈子…… 18

早川町立南保育所 望月玄太…… 19

ひまわり保育園 坂本精子…… 19

葦崎東保育園 中島英理紗…… 20

葦崎東保育園 望月光美…… 20

すみれ葦崎保育園 宮津順子…… 21

葦崎東保育園 早川美香…… 21

小淵沢西保育園 出羽真知子…… 22

長坂保育園 利根川典子…… 22

いずみ保育園 平井良枝…… 23

三葉保育園 山縣美月…… 23

富士吉田市立第五保育園 和光典子…… 24

富士吉田市立第三保育園 宮下杏莉…… 24

富士吉田市立第四保育園 渥美千春…… 24

富士吉田市立第四保育園 桑原早希…… 25

船津保育所 渡辺規子…… 25

船津保育所 渡辺真理…… 26

大石保育所 菊地真由美…… 26

南都留郡

富士吉田市

北杜市

葦崎市

編集後記

東 部

近隣火災からの避難を経験して	小立保育所	古谷華奈子	27
保育士になって	富士ヶ嶺保育所	在原智美	27
今、思うこと	長生保育園	今泉千恵子	28
母として、保育士として	巖こども園	上條裕美	28
「子どもから学ぶ」	さくら保育園	戸田葉月	29
保育の中で感じる言葉の力	上野原こども園	深須理絵	29

保育の質の向上と子育て支援の向上を目指して

山梨県保育協議会 会長 廣瀬集一

「子ども・子育て支援新制度」は第1期を5年間の準備期間とし、昨年度終了しました。全国保育協議会は様々な見直しの提言を行なってきました。給付制度の違いからくる公立私立施設の運営の違いや、職員配置、事務処理の煩雑さなど、まだまだ今後の課題を抱えています。

昨年10月からは、幼児教育・保育無償化がはじまりました。就学前教育の「質」や「年数」が、その後の子どもの認知的及び非認知的能力の発達に肯定的な影響を持つと、海外で複数の大規模縦断研究が報告されたことを受け、国立教育政策研究所が発表したことによります。ペリー就学前計画、NICHHD(いづれもアメリカ)やEPPPE(イギリス)など40年から10数年間の長きにわたる追跡調査の下、就学前教育は動機づけ、粘り強さ、自制心などの非認知能力を長期的に高めていくことが証明されました。結果として将来の所得向上や生活保護受給の低下につながるということが証明されたこととなります。

子ども・子育て支援法改正案には、付帯決議として、待機児童の解消や保育の質の向上、保育者の確保と処遇改善に加え、今後の「保育の必要性がある0、2歳児全員を無償化の対象とすることに向けた検討」を行うことを求めています。

保育士・保育教諭等の賃金改善と幼児教育・保育の質の向上は同時に目指すべきものとして研修要件が定められています。運営基盤の基盤となる「人材確保及び養成」は永年の課題であり、処遇改善Ⅱに伴い経験年数や専門性に応じた職務の新設が行われています。山梨県では全国に先駆けて29年度後半からキャリアパスに伴う認定研修を実施することが出来ました。

本年10月には、山梨県が山梨大学内に「幼児教育センター」を設置することとなり、幼児教育・保育の質の向上や幼保小の接続、研修体制などの充実を推進していきます。

本年度においては、認定研修分野の拡大や認定こども園・幼稚園の認定研修を取り入れるなど研修機会を大幅に増やしていくことを検討して

いましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施が困難になっています。関東ブロックや全国大会についても来年への延期が決まりました。

また、日本再興戦略改訂2015では、2019年度末までに第三者評価の受審が行われることを目指すと明確な数値目標も掲げられています。積極的に「見える化」を進め、就職を希望する保育士等や保育サービスマユーザーが優良な保育施設を選択できるような環境整備を進める、と記されています。

私たちは、子育て支援の専門団体として、英知を結集し「子ども・子育て支援新制度」に対応していかなくてはなりません。

子どもたちの健全な成長を願い、ライフスタイルの変化や社会情勢の影響による新たな課題に対して果敢に取り組み、将来の社会を支える人材育成を担う重要な役割を果たすため、様々な事業に取り組んでいきたいと思えます。参考までに、今後の課題の一例を挙げてみます。

1. 保育指針、教育要領、保育・教育要領の改訂への対応
2. 小学校への連携と接続及び学習指導要領の改正への対応
3. 保育・教育の必要録の活用、教育のスタートの自覚
4. 公立施設の統廃合や指定管理、民間委託の制度的な課題
5. 職員の処遇改善とキャリアパスと研修体系の構築と受講体制とこれまでの研修の在り方
6. 感染症対策と働き方改革
7. 新制度に係る事務量の増加と複雑化、ICTによる省力化への対応
8. 教員免許の更新と取得の特例対応(経過措置延長)
9. 社会福祉法人の地域貢献の在り方

一年を振り返って

山梨県保育部会長 山本 亜紀子

令和二年度、私は昨年度の副部会長に引き続き、山梨県保育協議会保育士部会長という大役をいただきました。所属する東部ブロックの先生方とでさえ、お会いする機会が少ない私にとって、県内外の、そして全国の代表の先生方との会議や保育大会への参加は、大変貴重な機会であり、期待と緊張感を持って、新年度を迎えました。しかし、前年度の後半に発生した新型コロナウイルス感染症への対応により、県内外で予定されていた会議や保育大会は軒並み中止となり、園内の対応に追われることになりました。

令和二年度は、新型コロナウイルス感染症対策で幕をあげました。密閉・密集・密接の「三密」を避けるため、進級式はクラスごとに行い、入園式は一年先まで延期しました。

県や市から登園自粛の要請があり、少人数での保育が続ききました。マスクの着用、手指消毒の徹底、対面を避けた座席配置、アクリル板の設置、保育室内の次亜塩素酸消毒を始め、できうる限りの対策を講じてきました。目に見えないウイルスを相手にした出口の見えない戦いは、今もなお続いています。

年度当初、様々な新型コロナウイルス感染症防止策を講じながら、私は苛立っていました。年間予定の多くが中止か延期。「コロナがなかったらあれも、これもできるのに。そこにもあそこにも連れて行ってあげられるのに。」コロナ憎し。そんなことばかりを考える毎日でした。安全が第一。子どもたちの命を守ることに、それ以上に大切なことなどあるはずがありません。頭の中ではわかっているけど、私の心に立つ波風。寄る波風を穏やかにしてくれたのは、子どもたちの笑顔でした。毎朝、「先生おはよう。」微笑むその顔が、「給食がおいしい。」と笑うその顔が、気付けてくれました。できないことばかりに目を向けるのではなく、何をどうやるかが大切なんだと。まさしくWithコロナ、新しい生活様式の意味が分かった気がしました。それからは、毎日の保育はもちろん、行事や園外保育など、なぜ、それを子どもたちに体験させたいのか、安全

に体験させるにはどうしたら良いのか、特に恒例になっているものほど、検討を重ねました。コロナ憎しから、コロナのお陰までは言いませんが、新型コロナウイルス感染症対策をきっかけに、当園の保育を見直す機会を得、子どもたちの笑顔輝く毎日が送れるよう、保育を行っています。

最後に、コロナ禍にあつて、会議も減ってはいますが、昨年、今年と県内の各ブロック代表の先生方とお話する機会をいただきました。園から出ることの少なかった私にとって、各ブロックの様々な園の様子を聞かせていただくことができる、大変有意義な時間でした。また、わからない事ばかりの私にご指導、ご鞭撻を賜りました山梨県保育協議会会長廣瀬先生、前保育部会長宮下先生を始めとする役員の先生方、事務局の皆さんに感謝申し上げます。ありがとうございました。



特別寄稿

新型コロナウイルス感染防止対策等への取り組みについて

山梨県子育て支援局子育て政策課長 土屋 嘉仁

保育士、保育教諭の皆様におかれましては、日頃より、子どもの健やかな成長の支援にご尽力をいただき、心から感謝申し上げます。

本年は、新型コロナウイルス感染症が世界中に蔓延し、社会活動や経済活動にも大きな影を落としております。このような状況の中で、保育所や認定こども園では、ひとりで家にいることのできない幼いお子さんを預かるために日々開所し、感染リスクを身近に感じながら保育に従事していただいております。県におきましても、県民の方々の声を踏まえ、去る6月には、保育者の皆様への感謝の気持ちを表す県庁別館のライトアップを実施したところであり、この場をお借りして、あらためて、保育の最前線でご尽力をいただいている保育士、保育教諭の皆様には感謝を申し上げます。

さて、新型コロナウイルスの感染拡大は、高齢者や障害者、乳幼児など、配慮が必要な方々を対象とする施設における感染症予防の取り組みの重要性を再認識させるとともに、特に、密接、密集を避けられない保育施設における感染予防の難しさなどを明らかにしました。

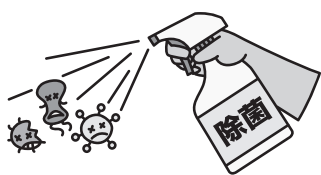
県では市町村と連携し、国の制度も活用しながら、各園が行う感染症対策のための衛生用品の購入費用に対する補助などを実施してきましたが、先般、保育協議会のご助言をいただき、「感染症に負けない山梨の子育て環境」を実現するための検討会を開催し、保育関係者や感染症対策の専門家の方々の参加も得ながら、山梨独自の感染症対策基準の作成について検討を始めたところです。

令和3年度の国の概算要求では、子育てなどの事情で都市から地方に移住しテレワークで仕事をする人を支援することとしており、感染症に

対応した保育の提供は、豊かな自然環境とともに本県の強みとして強くアピールできるものと考えます。

また、新型コロナウイルス感染症拡大は、保育士養成校に通う学生の保育実習をはじめ、保育の世界を目指す若者が保育現場に接する機会を大幅に減少させております。保育士の確保は、子どもを安心して預けられる環境を整備するために何より重要であり、保育の質を確保するために重要な課題と認識しております。県では、保育フェアや見学バスツアーの開催、昨年度末には、現役保育士の方に協力いただき、保育の魅力をわかりやすく伝える冊子「保育の魅力 in Yamanashi」を作成し、県内外の養成校に加え、県内の高校にも幅広く配布いたしました。今年度も、より若い世代が進路を選択する際に保育分野を希望していただけるよう、新型コロナウイルスの感染状況にも十分留意しながら、高校生を対象とした保育所等の見学会を実施することなどを検討しておりますので、保育士の確保・定着についても、引き続き、御協力をお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症の終息の見通しは立っておらず、冬期には再流行するとの指摘もされており、気を緩めることはできない状況です。末筆となりますが、保育士、保育教諭の皆様におかれましては、今後とも、ご自身の健康状態には十分留意され、愛情あふれた保育を実践していただきますよう、お願い申し上げます。



「やまじ」発行に寄せて

山梨県保育所保護者連合会会長 深澤 聡

日頃より、保護者連合会の活動にご理解ご協力頂き、誠にありがとうございます。

保護者連合会では、例年、保護者へ向けての子育て研修や親子交流事業等、子どもたちの生活がより充実したものとなるような活動を行っているところですが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、今日まで満足な活動が出来ず、今後の活動についての検討を余儀なくされているところです。

令和二年度の会長という大役を頂き、各種会議や協議会へ出席させて頂く中で、徐々にではありますが、子どもたちの保育に対する課題などを少しでも多く把握し、保護者会として何か出来ることがないかを考えていきたいと思っております。

本来であれば、保護者連合会の活動等を保育協議会の会員並びに関係機関のみなさまへお知らせしたいところですが、前述のとおり今年度は満足な活動が出来ていないことから、私の仕事である道路の管理と保育とが関係する「お散歩」を例に、私の考えを述べさせて頂きます。

お散歩は交通マナーを学び、体力が付き、ストレスを発散し、ぐっすり眠れるようになる大切な保育であると思います。また、お散歩をした日の子どもたちは、家に帰ってきて「きょう何処行って何々してきた」等と楽しそうに会話をし、親子のコミュニケーションにも一役買っています。

しかし、昨年5月に滋賀県大津市でおきた歩道上で信号待ちをしていた園児等が死傷する事故をはじめ、近年、お散歩中におこる痛ましい事故が増えていることから、保育現場においては必要性の議論が絶えず、お散歩を行わない保育所等もあると聞きます。

お散歩は、安全な道路を通ることが基本であり、安全であるからこそお散歩の中で子どもたちが自ら気づき、探って、成長していくのだと思います。次代を担う子どもたちのかけがえのない命を社会全体で交通安全事故から守るという観点から、園児等の移動経路における交通安全の確保

のため、道路を管理する県などの行政と交通を管理する警察が連携し、道路交通環境の改善を図る合同点検を昨年度実施しており、県が管理する道路では安全対策が必要な7カ所確認され、今年度順次対策を実施しております。合同点検の際には、当該箇所を移動経路とする保育所の先生方等にも同席して頂き、お散歩コースやお散歩中の状況等を説明して頂く中で、行政、警察、そして保育所等それぞれの対策をみんなで考えさせて頂いたところです。ご協力頂いた保育所の先生方等には、この場をお借りして、改めて感謝申し上げます。

お散歩コースの安全対策のように、関係する団体が連携して実施することで、はじめて効果を発揮するものは多くあり、保育所や保護者会がそれぞれ主催するイベント等もそのひとつだと思います。お互いに連携、協力することにより、子どもたちを最高の笑顔にするイベント等にすることが出来ると思います。保護者連合会では、こうしたイベント等における成功事例や失敗談、保護者や先生方からの要望や苦情などの情報を共有し、子どもたちの保育所生活がより豊かなものとなるような活動を行っていく必要があると考えております。

最後になりますが、日頃からお世話になっている保育所の先生方におかれましては、新型コロナウイルスという未曾有の感染症への対策に頭を悩まされる中でも、子どもたちの安全を確保し、私たち保護者が安心して子どもを預けられる保育所環境を形成されていることに心より感謝申し上げます。コロナ禍にあっても保育所と保護者会とで連携、協力し、子どもたちのために何が出来るか考えて行ければと思いますので、何卒よろしくお願い申し上げます。



甲府市

保育士として

山梨立正光生園保育所 加藤 小百合

「ママはどうして保育士さんになったの?」と、お風呂上がりの我が子から聞かれる。「子どもが好きだからだよ。」と答える。学生時代、卒論の先生からも、同じ質問をされたことを思い出す。その時も、同じ答えを返すと、「好きだけではなれないよ。」と言われ、今は言葉の奥にある意味が、よく分かるようになった。

保育士になって年長を任せられるようになり、ひなまつり会の劇遊び『オオカミと七匹の子ヤギ』をする。一人の男の子がいて、活発でマイペース、集団から外れてしまうこともしばしばあった。何の役をしたいか聞いてみると、「パン屋さん。」と答え、役に決まる。いつもふらふらしていたが、自分の番になると、どこからか現れ、セリフを発表できるようにになっていた。当日、大勢の観客の前に、その子は舞台に立つ。しかし、順番になると、「あー。」と大声を出して、興奮状態になってしまふ。私の背中からは汗が流れ落ち、どうして。と頭にその言葉が浮かぶ。今は亡き所長から「これも良い思い出になるわよ。」と言われた。今思い起こせば、あの時の言葉の意味が理解できる。その子は、その場にいることが精一杯で、大声を出さずにはいられなかったのだ。

保育士の仕事は本当に奥深い。そして、とてもやりがいのある仕事だ。私たちは、子どもたちが毎日楽しいと思って通える場となるように、一緒に遊んで遊び、ふれあい、保護者の方と協働して子どもの成長を喜べるようにしていきたい。

夜、我が子が「絵本読んで。」と本を持ってくる。横で眠ってしまふ私。「じゃあ、読んであげるね。」と、いつの間にか読み聞かせをしまわっている。

つながっていくとこぼれ

第2なでしこ保育園 鶴田 美佐保

「普通でいるのが一番大変です。」二十年程前、勤めていた園の保護者からの年賀状に添えられていたひと言が深く心に残っています。

「みんなちがって、みんないい」価値や基準は一つではない、優劣をつけるという考えから、全ての事柄や時、人も物もみんな尊いと考える金子みすゞさんの詩に託された「思い」を伝えたくて返信に付け加えた当時の私ですが、自分はどうと、思春期の娘達との数年間を「子ども」といっても別人格の他人であると、改めて思いながら、同じように悩み、葛藤していた日々の事が追想されます。

主人の転勤に伴い、甲府に引っ越し、母として十四年が過ぎた頃、縁があつて現在の園に保育者として勤めて十七年が経ちました。

「全ての悩みは対人関係の悩みである。」という言葉がありますが、感情労働である保育者にとって、経験する殆どの事がこれにあたりと感じています。子どもの育ちを一番に考えて保護者に対応したつもりが、すれ違ってしまったり、保育内容をめぐって同僚とのいきちがいが生じたり、その事で自己嫌悪に陥ったり、時には職を離れたいと考える事もありました。

しかし、人と関わることで支えられ、希望や勇気をもたらしたことも数知れません。これまでの全ての出会いが保育者としての自分を作っていると感じています。

「二人の孫の面倒をみていると、アー保育園で大変だなと感じます。可愛いけれど疲れます。」前出の保護者から届いた昨年の年賀状に添えられた言葉に時の流れを感じながら、目の前にいる子ども達の「今」をありのままに受けとめ、一人ひとりの「自信」と「安心感」を育む保育をしていきたいと思えます。

「くるみ愛」

池田くるみの木こども園 久保寺 亜矢

保育指針の改定、保育要領の改訂、さらには新型ウイルス感染拡大による新しい生活様式の始まりと社会が大きく変化していく中、今私たちが保育者に求められることは何かと、常に考え続けてきました。子どもたちが望む環境は時代の流れの中で失われていくばかりです。どんなに大きく時代が変わろうと、環境の変化があつたとしても変わらぬものがこの園にはありました。「思いやり」園のすべての生活は思いやりの心で支えられています。どんな社会の変化の中でも、どんな環境の中でもいつも保育の基盤に「思いやり」ありました。自分自身もこの思いやりに支えられてきたことをいつも感じてきました。真心を込めた思いやりの保育の中で愛されることの喜びを味わい、自分が好きになり、人を愛する心が芽生えます。見えないものを大切に保育はずっと変わらず私たち保育者一人一人にその精神は受け継がれてきました。そうした思いの中で生まれたくるみ愛。私が愛してやまないこの園で愛してやまない子どもたちと過ごしてきた時間はかけがえないものです。

私がこの園に就職してから二十四年。何人もの卒園児を送り出してきました。愛されることの喜びを感じた子どもたちは堂々として、優しさで溢れています。その姿を見るたびに、素敵な仕事であることを実感します。振り返ると自分は子どもたちに育ててもらい、思いやりで支えられた保育者人生。まだまだ成長しなければなりません。あくなき探求心といつまでも変わらぬ思いやりの精神。そしてこれからもくるみ愛はさらに深まるばかりです。



母親の偉大さ

甲南立正保育園 新美 京子

保育士として仕事に従事していく中で、保護者との何気ない会話から『母親の偉大さ』を肌で感じることもある。保護者との会話は、主に子どもについての話であるが、時には『休み中も仕事でした。』『久しぶりにお出掛けに行ってきました。』などプライベートな内容を話すこともあり、生活面を垣間見ることができる。そこには、仕事・家事・育児をバランスよくこなす母親の姿があり、ふと『自分がリフレッシュする時間はあるのだろうか？』『弱音を吐きたくないのだろうか？』と疑問に思う。

私の身近には、プライベートな付き合いも多い、同僚の後輩保育士がいる。彼女は一児のシングルマザーであるが、正職員として多忙ながら、弱音を吐かずに仕事・家事・育児をこなしつつ、彼女自身がリフレッシュする時間も大切にしている。保育士として、母親として、一人の女性として両立している彼女の姿にはいつも感服する。

私自身、保育士になるまでは、母親とは『当たり前のように何でもこなせる存在』だと思っていたが、保育士という立場から母親と関わるようになり、それは決して当たり前なことではないと気付いた。「女は弱し、されども母は強し」という言葉があるが、母親は皆、我が子の幸せのために常に愛情深く、時に我慢強く、子育てや仕事、日々の生活に奮闘しているのだ。このことに気付いたとき、自分の母親も含め、すべての母親を心から尊敬するとともに『母親の偉大さ』を感じた。

誰しも、時には弱音や愚痴をこぼしたくなる場面もあると思うが、私は母親という存在に感謝し、これからも保育士という立場から微力ながらも支えられる存在になりたいと思う。

中巨摩

子どもたちの育ちを願って

敷島保育園 塩田 千晶

「子どもたちの育ちを願って」

豊富保育園 長田 てるみ

『ぼくがきみたちにいえることは1つだけ

それは目標を持つこと 目標を持つことで

きみたちが望むことのほとんどは可能になるはずですよ。

イチロー』

これは私がいつもこころのノートに書きこんでいる言葉です。

保育士となり、子どもたちに、元氣や勇氣が湧いてくるようなメッセージを送り続けてきました。子どもたちもみんな「なりたいじぶん」に向かって頑張り、出来る事が増えました。

- ・ はやく走れるようになりたいな。
- ・ 歌を大きな声でうたえるようになりたいな。
- ・ お絵かきが上手になりたいな。
- ・ 縄跳びが跳べるようになりたいな。

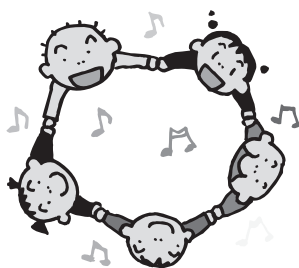
チャレンジする事は日常の中にたくさんあるのが当たり前だと思っていた暮らしては、新型コロナウイルスで大きく変わってしまいました。

嫌なことがあっても、たとえ失敗しても、夢を持って目標に向かい少しずつ頑張れば、きっと出来るようになると思います。ちいさな事を積み重ねることで、いつの日にか信じられないような大きな力になり「なりたいじぶん」に少しづつ近づけるようになると思います。大きな夢や目標を持って成長していく子どもたちの育ちを願い「がんばって」のエネルギーを送りながら、成長の手助けをしていきたいと思っています。

私は、子どもの頃幼稚園が嫌いで、毎朝登園を嫌がり母親を困らせていました。給食嫌いの私に、優しく接してくれたその時の先生との出会いがきっかけで、保育士を目指し、子どもに関わるようになって二十年以上が経ちました。担任で受け持った教え子もたくさんになりました。

先日、三歳児の時に担任をした園児と母親に、偶然出会いました。印象深いお子さんだったので、会ってすぐにわかりました。母親は、少し離れた所にいた中学生になったお子さん呼び「人生のはじめての担任の先生だよ。覚えてる？」と聞きました。面影を残しながら大きくなったその子は、恥ずかしそうに「覚えてるよ」と答えてくれました。中学校で部活動を頑張っていることなどの嬉しい報告を聞き、成長を喜びました。母親からの「人生はじめて」という言葉に驚きとともに、重みを感じました。

保育園時代は「はじめて母親と離れる」「はじめての運動会」など、「はじめて」を経験することが多くあります。けれど、担任の名前は、その後の小学校・中学校・高校と、その子の人生において出会っていく先生方の中で忘れられてしまうことも多いと思います。その中で、私が影響を受けたように、人生の土台を作る大切な時に経験したこと、感じたこと、頑張ったことなどが、自分で考える力をつけ、生きていくうえでの大切な力の源になっていくことと思います。同じ経験の中でも、感じることは十人十色です。一人ひとりの子どもたちがたくさんを経験し、心豊かに育つことを願っています。



「子どもの食事から、家庭と繋がる保育へ」

竜王西保育園 浅利 由香

保育に関わる仕事をしてから24年続けてきた間、食事時の子どもの食べ方が気になるようになりました。それはしっかりと噛むという「咀嚼力」が弱い子どもが多くなってきたことです。どうしたら咀嚼力を高めていけるのか色々な文献を参考に自身で学んでみました。たどりついたのが咀嚼トレーニングです。保育園が家庭と連携をうまくとりながら子どもたちにトレーニングを行うことにより、子どもたちは咀嚼を獲得できるのではないかと考え、保育園と家庭で取り組んでみました(0・1才児対象)。その結果、どちらも噛む回数が増加するなどの効果が確認できました。また、保護者も家庭で子どもと一緒に咀嚼トレーニングを実際に体験したことにより、「言葉を真似するようになった」「よく噛むようになった」「大人もゆっくり噛んで食べるようになった」などしっかりと噛むことを意識しながら食べるようになり、咀嚼力がアップしたという声を多く聞くことができました。このことから、咀嚼トレーニングは家庭でも負担なく取り組めたことや、保護者が子どもに対してきちんと向き合い継続して取り組めたことが効果に繋がったのではないかと感じました。また、子どもの成長を実感し、喜びを保育士と一緒に共有できたことに繋がりました。このように、咀嚼を通して保護者を巻き込みながら支援できたことは、栄養摂取の目的だけでなく、子どもの様々な発達に繋がっていく効果があることがわかり、私自身の学びとなりました。この学びを基盤とし、「保育者と子ども」「子どもと家庭」「家庭と保育園」が繋がっていき更なる子どもの成長を願って、三位一体の「家庭とつながる保育」を目指していきたいと思えます。

コロナ禍の保育で思うこと

豊富保育園 寺田 拓矢

新型コロナウイルスの影響により、人と人が接触することが制限されている。その影響は保育の中にもある。私は、新型コロナウイルスが流行っているこの年に、新任として保育士を始めた。私が想像していた保育とは異なり、コロナ対策を取り入れた特別な保育であった。マスクをしながらの保育、密にならないように子ども同士の間隔をあける、子どもとのタッチはしないなど、保育士と子どもとの間に新型コロナウイルスという壁があることを感じる。

子どもを褒めるときや慰めるときなど、通常の保育であればぎゅっと抱きしめたり、手を握るなどして接すると思う。しかしコロナ禍では接触を減らすために手を握らず言葉だけで伝えるということが増えている。そこで大切になってくるのが伝え方である。私は「すごいね」など簡単な言葉でしか褒めることができなかつた。もっとオーバーに言ってみようとか、言葉の数を増やしてみようと試みたが、どうもうまくいかないと感じてしまう。クラスについてくれていた経験あるパート保育士さんのフォローもあって助けられてここまで来た。実力不足を痛感する毎日である。マスクで顔が半分隠れている状況でいかに子どもに思いを伝えるか、まだまだ試行錯誤は続く。



今、思うこと

榊形西保育所 村 松 美 穂

二〇二〇年コロナウイルスが流行し、保育所でもガイドラインに沿った生活を余儀なくされている。普段の保育の中でもそうだが、行事においてもソーシャルディスタンスを守るために密にならないよう、子ども達は手をつながない・向かい合わない・一定の間隔をあけ距離を保つ・消毒をこまめにする等を考慮しながら生活している。その中で保護者参加の大型行事を検討し、夏まつりと運動会を実施した。

夏まつり：通常では夜間に保護者参加型で音頭を踊ったり、神輿を担いだり、親子で買い物を楽しむ内容で行っていた。今回は子ども達だけの参加で、内容はほとんど変えずに昼間の園庭で距離を保ちながら、兄弟と一緒に、兄弟のいない子は保育士と一緒に買い物を楽しんだ。音頭も神輿も密にはならない様に細心の配慮を払いながら行い、子ども達の満足のいく楽しい夏まつりになったと思う。保護者へはCATVの放映で発信した。「参加はできなかったが、いつもは見られない子どもの様子が見られて良かった。」との声が聞かれた。

運動会：一家庭二人の参観とし、ソーシャルディスタンスを保ちながら普段の保育で行っている運動あそびの中から各年齢に合った競技内容を抜粋して披露した。親子競技も取り入れ、短時間でも小規模ならでの良い運動会ができた。

他にも様々な行事が見直され、子どもの負担にならず楽しく取り組める内容の行事にしていける良い機会なのかもしれないと感じている。

そして、働き方や暮らし方をうまく変えて幸せに転じるように心がけ、時が経ったときにコロナ禍がきっかけで良い事もあったと思えるよう、日々を過ごしていきたいと思う今日この頃である。

「気になる子」

若草保育園 若尾 圭亮

「どどどど」物凄い足音だ。心なしか廊下が揺れている気がする。と同時に「せんせー！」轟く大きな声。辺りの空気が振動している気さえしてくる。「気になる子」が登所したのだ。また今日も僕の一日が始まる。少し苦手意識があった。子どもらしく素直な子で、とても愛らしいのだが会話は一方通行であり、こちらの話は一切聞いてくれない。落ち着きがなく注意力散漫で、座っていることが苦手。僕はクラス運営をするにあたり、頭を悩ませていた。僕は、気になる子の行動を改善させようと躍起になっていたが、とうとう上手くはいかなかった。

情けない話で諦めの境地とでも言うのか、逆に気になる子の話にとことん付き合ってみることにした。時間を掛けて傾聴してみた。面白かった。順序立てられた話に思わず聴き入ってしまった。そこでふと気が付いた。この子には、自分の思いを相手に伝える能力があるのだ。そこからは芋づる式であった。注意力が散漫な分、様々なところに目が行き、他者が気付かないような事にも気付くことが出来る点など、それまで想像すらしなかった長所の数々に気付かされた。

たしかに、社会性や協調性は身に付けなければならないし、改善すべき問題行動は存在する。ただ一方で、その子の特性を理解し、長所として捉え、将来社会で生きていくための武器として導いていけるような、そんな支援も必要なのではないだろうか。僕はいま、そんな保育を模索している。

物凄い足音に大きな声。今日も「気になる子」が来た。しかし以前の「気になる」とは違う。将来どんな大人になるのか、どのように自分を輝かせているのか「気になる」のだ。今日も僕と子ども達の一日が始まる。



保育士の夢を持ち始めて…

八田保育所 土屋 沙織

地域番組の撮影で「保育園の先生になりたいです。」と五歳のとき言ったのが最初の記憶だ。ここから私の夢の実現が一歩ずつ進んで行った。

小学生で母の勧めもありピアノを習い始めた。練習が嫌になり辞めたいと思う時期もあったが「保育園の先生になりたいのなら、とり合えず続けてみたら？」という母の言葉で心が動いたこともあった。ドラマの影響で違う職に憧れを持った時期もあったが、保育士が候補から外れることは不思議となかった。

願い叶って、保育士免許の取れる大学に進学。いい友達や先生方に恵まれた。たくさん楽しい思い出と共に貴重な経験ができ、とにかく楽しい四年間だった。実習では「先生」と呼ばれることに慣れていなくて恥ずかしさもあったが、先生と呼ばれる自分になれた瞬間が嬉しかったことを覚えている。大学での出逢いは大切な繋がりとなっている。同じ業種を頑張る友達存在は、今でも私も頑張ろうと思える一つの原動力である。

パソコンで見た自分の受験番号。就職先が決まったときの感動は今でも忘れない。夢が現実になった瞬間だった。「おめでとう」と言葉を掛けてくれた友人、泣いて喜んでくれた家族。私から伝えた「ありがとう」という言葉は、ここまで色々な形で支えてくれた人たちへ、心からの感謝を込めて伝えたものだった。「諦めなければ夢は叶う」とよく耳にするが、私の人生はそうだった。

保育士になって三年目。くつたくな笑い顔を見せてくれ、時に思わず笑ってしまうような発言をしてくれる子ども達はとても可愛く、この仕事のやりがいである。子どもへの関わり方などで悩むことも多いが、職場の先生方や子ども達との出逢いに感謝しながらこれからも頑張っていきたいと思う。

保育園の栄養士として

たちばな保育園 遠藤 実紗

私は大人になった今でも、子どもの頃に食べた給食が「おいしかったなあ」と思い出します。

また、「行事はこういうメニューだった」とか「誕生日にはカードをもらった」とか給食の思い出がたくさん残っています。成長し大人になっても記憶に残る給食を作ってくれた先生に憧れ、私は保育園の栄養士として働きたいと思いました。また、保育園の給食は、生まれてから初めての食事である離乳食から関わることも出来ることにも、魅力を感じます。

一年目は失敗の連続で自分の未熟さを痛感し、「苦手意識」やトラウマを持たないようにと、責任のある仕事で悩むことも多かったのですが、自分の考えた献立や調理した食事を、「おいしい」と食べてくれることにやる気ももらい、三年が経ちました。子どもの食生活は、成長し大人になっても影響します。今は、インスタント食品やファーストフードが簡単に食べられ、このメニューが何から作られているのか、どうやって作られているのかを感じられる機会が少ない環境です。私が勤めている園は給食、おやつともほとんどが手作りであり、お母さんの、「このメニューはどうやって作るの？」に対応ができます。実際に「今日の給食で食べたメニューがおいしかったから、家でも食べたい！」と子どもからお願いされ、お母さんが給食室へ聞きに来たりします。降園時に給食のサンプルを見ながら、あるいは家庭でのコミュニケーションの一つに、保育園で食べた給食やおやつが話題になることは、私にとってもうれしいことです。これからも「食」が子どもたちの中心であるように、しっかりサポートしていきたいです。何年、何十年後、今の子どもたちが、ふと保育園で食べた給食を思い出してくれますように。

山梨市

「日々の保育の中で」

八日市場保育園 前嶋美香

街中で「先生！」と卒園児に声を掛けられることがある。成長はしているが面影はまだ残っており、その頃の保育園での出来事に話題が尽きない。懐かしくもあり、幸せな瞬間である。彼らにとってはいつまでもあの頃の「先生」であり、その存在が今でも「先生」として仕事を続けるモチベーションにもなっている。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で新しい生活様式が取り入れられ、日々の保育の中にも、マスク着用やこまめな手洗い、消毒、ソーシャルディスタンスを保つなど、昨年までとは違う日常を過ごしている。年中児の担任として、その新しい日常の中、パワフルでやんちゃな子どもたちに負けないよう保育をする日々である。

ある日、Aくんが虫を捕まえ「何の虫かな？」と尋ねてきたことがあった。私は「カナブンかな？なんだろうね」と返事をすると、一緒にいたBくんから「本で見ようよ」との声が。「先生！本で見てもいい？」と聞くとすぐにいろんな本を集めてテラスで調べ始めた。あれこれと色々な図鑑を開きながら調べる姿は真剣そのもの。そして見つけると嬉しそうに駆け寄ってきて、「あの虫、やっぱりカナブンだったよ！」と目を輝かせ報告してくれた。わからない事を調べてみようとする彼らの探求心に驚かされ、その姿勢をいつまでも持ち続けてほしいなと思ったと同時に、子どもたちの素直な疑問にすぐに正解を出すのではなく、その疑問に寄り添い、探求する力を伸ばしてあげたいなと思う出来事であった。

日々の保育は毎日が発見であり学ぶことが多い。保育士としていろんな経験を積み重ねながら、子どもたちの「先生！」と呼ぶ笑顔をいつまでも大切にしていきたい。

子ども達の育ちを願って

日下部保育園 小河弘美

子ども達が園庭を走り回り、元気に遊び、笑い声が聞こえてくる…。これまで当たり前過ぎてきた【日常】を今はまだ取り戻すことができないでいる。『新型コロナウイルス』の感染拡大防止のために、たくさん制約が生じ、身動きが取れなくなっていることも多い。大切な思い出になるであろう運動会や親子遠足、お遊戯会等の様々な行事も中止や縮小するような状況にならざるを得ない。子ども達が日々の生活の中で積み重ねている練習の成果を大勢の家族の見守る中で披露する機会が持てないまま時間が経過していく。一人ひとりの子ども達や保護者にとって、行事や日常の中の時間は唯一無二の記憶、記録、思い出となっていくであろうことを思うとできないから諦めるのではなく、現状の中で何ができるのか？可能となる方法は？感染予防の対策を十分にとるにはどうしたら良いのか…と話し合いの時間を重ねながら模索し、試行錯誤の日々が続いている。

『ウイズコロナの時代を迎えて…』と、言われる生活の中で日本中、否、世界中で感染者の発生が続いているが、私たちはこの事態が終息するまでは、三密を避け、クラスターの発生やウイルスの拡大を抑えつつ、日常の保育を続けていく取り組みをしていかなければならない。自分に出ることは何であるのかを常に考えながら保育に携わっていきたいと思う。子ども達が楽しく遊び、生活できる場所、笑顔があふれる日々であってほしいと願っている。



「強くなれる理由を知った」

窪平保育園 三枝 恵

保育士として働き始めて十二年目。今年度は、十二名の年長児の担任をさせていたたく事になりました。一人ひとりの個性があふれていて、元気いっぱいでもかわいい子ども達。毎日にぎやかな声が響いています。そんな年長さんは、今年話題のアニメがみんな大好きです。先日の運動会のマーチングでは、主題歌を演奏しました。重い楽器に弱音を吐く事もあったけれど、練習を重ねるごとに強くなってきました。一人ひとりの成長を感じる毎日でした。本番、みんなの気持ちが一つになった演奏はとても上手で素晴らしく、心に強く響きました。保護者の方もみなさん涙を流して、子ども達の成長を見届けてくれた姿に、また感動でした。

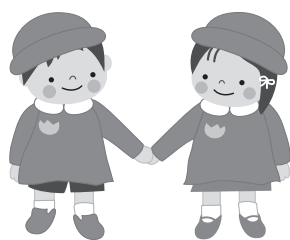
運動会が終わったある日の事、大太鼓を担当した男の子が「先生、もう大太鼓の練習しないの?」と聞くので「運動会が終わったからもうしないよ。」と伝えると「どこにしまつてあるの?もつと大太鼓の練習やりたかったな。」と話している姿がとてもかわいく、その子の心に楽しい思い出が深く刻まれている事が嬉しかったです。細身の身体で一生懸命大太鼓を持って叩いてくれたその子は、本番でマーチングが終わった時に「今日は今までの練習より、いちばん軽く感じたよ!」と話しており、子どもの可能性と力はすごいなと、改めて感心させられました。お母さん、お父さんが見てくれていている事での嬉しさ、誇らしさが強さの原動力でもあると感じました。

保育園では毎日のように、そのアニメのごっこ遊びをしており、役決めや設定も真剣な子ども達。「家族愛・優しさ・悲しみ」等色々な想いを感じ取っているように思います。子ども達が大好きな気持ちは大切にしながら、心優しく思いやりのある人に育って欲しいなと願います。

保育士になって

日下部保育園 有泉 結菜

私は母が保育士をやっていたこともあり、幼少期から保育士に憧れていました。そんな私が保育士となり、一年目がスタートしました。大学生活では、実習の中で運動会やお遊戯会などの様々な園行事に参加させていただきました。子ども達の頑張る姿や無邪気な笑顔にパワーをもらうと共に、子ども達の成長を感じられる貴重な経験でした。子ども達の一番の成長の場である園行事の中で自分自身も共に成長していきたいという期待を抱いていました。しかし、今年は新型コロナウイルスの流行により様々な年間行事が中止や制限されてしまいました。それだけではなく、自粛期間で子ども達に会えない日々も多くありました。子ども達と挑戦してみたかったことができないなど、悔しい思いをすることも少なくありませんでした。そんな日々は私が想像していた保育士生活とはかけ離れていて、これまで経験してきた園行事などは、当たり前に行えることではないと気づかされました。それでも子ども達は、日々たくさんの事を見て、感じて成長しています。だからこそ、保育園での一日一日をどれだけ大切にしていかなければいけないのかを痛感しました。子ども達と毎日関わることで、私自身も成長し、子ども達と喜びや悲しみなど様々な感情を共有していきたいです。又、子ども達一人ひとりと丁寧に向き合い、理解して、個々にあった保育をしていきたいと思えます。初めてのことが多くできることも少ないですが先輩方の指導の下、様々な経験ができることに感謝し、精一杯頑張っていきたいと思えます。



甲州市

こころのぬくもり

勝沼保育園 石川 雅美

♪きょうもたのしく すみました

なかよしこよしで かえりましょう♪

と、毎日夕方、各クラスから可愛く元気な歌声が聴こえてきます。その時私はいつもこう思います。「今日私はこの子たちに何をしてあげたのだろうか」「何を与えてあげられたのだろうか」「楽しい時間を送ってくれたのだろうか」と。一日の大半の時間を園で過ごす子どもたち。小さな心と体で、一生懸命に表現する健気な姿に伝えてあげようと、私は心身を七変化したり、心を読んだりします。(メンタリスト?笑)

「今日はこれができるようになった、これを覚えた、苦手な物を食べられるようになった、友達と仲直りした」など、目に見える成長には、心の成長が先に発生していると思います。どんなに幼くてもその心はとても敏感で壊れやすく、しかも関わりに慎重さを欠かせません。そんな繊細な「心」に受け入れてもらうことが保育者の第一歩だと思っています。

心から安心できる大人に出会えて、その大人に寄り添ってもらえることで、「人から愛される心地よさ」や「守られる心地よさ」を感じ、「人を信じること」や「自分に自信を持つ」「自己肯定感の高まりが、「生きる力」の土台作りに繋がると思います。

この様な大事な時間に向き合う日々の中、成長の手助けをしてあげられたかな?と振り返りや明日への課題を見出す、自問自答の後、「いしかわせんせい」と、声を掛けられ、膝の中に体を預けてきてくれる子どもたちに、温かな感情と温もりをプレゼントして貰える至福の時間と空間に、たまたまなく「幸せ」を感じる「夕方」です。

変わることにない保育への想い

たんぽぽこども園 成島 晴香

保育では避けることのできない「密」の空間。感染症対策のため打ち出された新しい生活様式「3密を避ける」に園生活のあり方と感染リスクへの不安に模索する事態となりました。しかしこのような状況下で当たり前のように行っていた日常の保育を立ち止まって考えるきっかけとなり、変わらずに大切にしていきたい思いに気づかされました。

抱きしめる、手をつなぐ、寄り添いほほ笑みかけるなど子どもと関わる中で自然とみられる姿。この時に感じたぬくもりは安心感や信頼関係につながり成長の基盤となり、触れ合うことで芽生える愛着関係は保育にとって切り離すことはできません。また子ども同士でも自然と集まりあそびを通してコミュニケーション能力や思考力などが育っていくことを考慮すると、様々な人との密接な結び付きや愛情を感じ取るのに必要なスキンシップは育ちの支えになるため、今後安全対策をとる中でも重要視すべき「密」があるのではないのでしょうか。

またオンラインを活用した保育の急激なニーズの高まりに、直接的な触れ合いや関わりができず画面上では一方的なつながりになってしまうのではないかと懸念していましたが、現代だからこそできる手段であり上手に活用することで保育を取り巻く環境が広がる可能性があることを実感しています。

これから先の変化していく社会に向き合いながらも、子どもへの丁寧な関わりは見失うことなくその育ちを守っていく責任を持ち保育を続けていきたいと思っています。



ほっこりしていますか

奥野田保育所 前嶋 健一

「ほっこり」の意味↓「心が落ち着く・ほっとする・心が温まる・癒されるまったりする・ほんわかする」といった癒しの感情を「ほっこり」と表すことができます。

3歳児クラスで天気の話をしていた時の事。

保育士「おひさまが出ている時の天気は何て言うか知っている？」

子ども「晴れ！」

保育士「そうだよね。じゃあ、お空から涙みたいな水が落ちてくる時の

天気は何て言うか知っている？」

子ども「雨！」

保育士「そうだよね。じゃあ、雲におひさまが隠れちゃっている時は何て

言うかな？」

子ども「・・・。おひさま出てきてーって言う」

保育士「（ほっこり）」

3歳児クラスで遠足に行き、お弁当を食べていた時の事。

保育士「その敷物はデイズニーの絵なんだね」

子ども「そうだよ」

保育士「このキャラクターの名前を知っている？」

子ども「ミッキー！」

保育士「これは？」

子ども「ミニーマン！」

保育士「（これは難しいかな・・・）これは？」

子ども「グーフィー！」

保育士「おー、よく知っているね。じゃあ最後に・・・（メジャーなキャラクターで締めるか）この名前は？（ドナルドダックを指名）」

子ども「ガー」

保育士「（ほっこり）」

保育って頭も体も心も疲弊しますよね。そんな中、皆さん日々の保育の中でほっこりしていますか。ほっこり出来る場面を捉えていますか。見逃してはいませんか。ほっこりした気持ちを子どもと共有できていますか。職員間で共有できていますか。出来ていれば保育って楽しいですよ。出来ていなくても大丈夫。この文章に出会った時からほっこりを探してみようとして下さい。それだけで何かが変わるはず。そしてきっと保育がもっと楽しくなるはず。です。

大学で学んだこと

泉保育園 大塚 葉月

私は、四月から新人保育士として働いている。私は某音楽大学に4年間通い、音楽と幼児教育について学んできた。大学では、鍵盤楽器や声楽は勿論のこと打楽器、お囃子、リトミックなど様々な種類の楽器や音楽に触れてきた。そんな私の大学で学べて良かったなと思うこと二つを話していきたいと思う。

一つ目は、打楽器だ。打楽器の授業では、ボンゴやコンガ、ドラム、マリンバなど様々な楽器を体験した。特に印象に残っている授業は、マーチングの授業だ。私はマーチングを授業で体験するまで未経験だった。実際に体験してみても難しいことを知った。マーチングは、ただ楽器だけやっていたら良いのではなく、パフォーマンスをしながら、周りと一緒に、目線で会話しながら行う。なので、子どもたちにとっては、大人がやるより遥かに難しく、それをやっているのだからとてもすごいことだなと感じたのを覚えている。

二つ目は、リトミックだ。リトミックの授業では、エミール・ジャッククルダルクローズについて学び、リトミックを通して音楽と身体表現の結びつき、身体表現を通して育む、幼児の音楽表現の重要性について学んだ。リトミックの授業では、ピアノに合わせて歩いたり、友達とセツ

シヨンしたりした。私がリトミックの授業で感じたことは沢山あるが、その中でもリズム感、判断力、協調性などを通して即時反応、内的聴感が育まれると体験して思った。

私は、現在二歳児を担当している。コロナウイルス感染症予防対策の為、歌を歌わなかった期間があった。現在は秋の童謡の歌を、歌詞に合わせて腕や足を動かしながら楽しく歌っている。歌を歌うことが大好きなクラスなので、今後は、子どもたちに様々な楽器や音楽に触れ、今よりも音楽が楽しいと思ってもらいたい。また、子どもたちに音楽を教えるときは、「一緒に楽しむ」、子どもたちと「音楽を共有する」という心構えで音楽を教えていきたいと思っている。なにより、音楽は楽しんだ者勝ちだと私は思う。

笛吹市

「時代の変化と保育」

英保育園 浅川 としみ

山々に囲まれた自然豊かな環境の中で、保育士として20年、子ども達と過ごしている。子ども達はそれぞれの成長を進め、育ちゆくその姿に一喜一憂出来るこの仕事に充実感を感じている。しかしながら、時代や環境の変遷による子ども達の変化や課題について考えさせられることが多くなってきた。

たとえば、入園したての3歳児が水道の水を自分で出せない事が増えた。最近では蛇口をひねるタイプの水道が少なくなってきたりする事もあり使い方が分からないといった理由もあるが、指先や手首をうまく使えない様子もどうかえ、それらを上手に使えるための経験の場が減ってきている事を感じる。日常生活の中でも水道をしつかり止めない事、全く止

めないで次の行動に移ってしまう事、トイレで水を流さず出てきてしまう事も多くなってきている。力が弱い子どもでも使いやすいように考えられた利便性や触れずとも自動で水を流す衛生面・安全面を考えた文明の力により世の中は大変便利になった。しかし、これまで日常生活の中で当たり前前に繰り返し経験し、自然に身につけてきた機能発達や注意力を養う機会が失われつつあるようにも感じる。また、就学後に和式トイレがうまく使えない子（和式で排便排泄出来ない）が増えているといった話も聞く。

自然の豊かさと共に車が無いと不便な車社会の山梨県。そこで育つ子ども達の運動機能の低下が課題となっている昨今、保育の場でも運動や体力づくりに加えて、機能発達を養うための細かい工夫や活動のあり方にこれまで以上に配慮しているという話をよく聞く。子ども達が長い時間生活をする場としての保育園。時代の変化を見据え、必要な経験を損なうことなく子ども達が「今」を学び育っていけるよう、子どもの育ちに寄り添える幸せを噛みしめながら、その責務の大きさに思いを新たに

見上げた空に明るい笑顔を思い浮かべて

石和あら川保育園 菱山 智恵子

私は保育の仕事が大好きです。子ども達の元気な笑顔が大好きです。幼児教育に携わることができた私は、幸せ者です。

保育の仕事が始めて、十七年目を迎えました。思い返すと幼児教育に携わった経験は、私の心身の糧となり今日まで成長できたのだと思えます。理事長先生を始め、園長先生、諸先生方に感謝申し上げます。

子育ての経験は、人として豊かな厚みを増すものよと、お世話になった先輩より励まされた言葉があります。

学生の時から勢いに任せ突き進んできた私に訪れた試練は、わが娘の子育てでした。長女はよく泣く子でした。三歳の時に招待された保育参

観では終始、泣きじゃくり椅子に座れず私の膝上で過ごす娘。こんなはずではなかった、娘を応援するはずの私は、ついに心が折れてしまった瞬間でした。我慢できず娘と一緒に泣いた保育参観。渦中で胸の内を話す事は容易なことではないと痛感した中、やっと心の内を話せた場所がありました。娘が通う園の先生方でした。娘の園生活の写真を見ると、娘と先生が手をつなぐ写真があり、寄り添って娘を保育してくださった事が伝わり、今、思い返しても胸が熱くなります。不安で泣いていた娘は先生方の寄り添う保育のおかげもあり自信をつけ、運動会リレーでは、バトンを次の走者に力強く渡すことができました。会場には「お父さん、お母さん、娘さんは大きく成長しました。安心してください」と放送が流れ、安堵と共に涙が溢れ出た事を今でも鮮明に記憶しています。

幼児教育は尊い仕事です。先生方の存在は、家族に明るい希望の光を灯し笑顔に変える力があると信じています。わが娘の子育てから、少なからず厚みを増した私の保育観は大変豊かなものになりました。空を見上げて、子ども達や保護者様の明るい笑顔を思い浮かべながら、私たち家族が園の先生方に助けて頂いたように、私も子ども達や保護者様の笑顔を増やせるよう、寄り添った保育を目指していきたいと思えます。これからも、学びを続け保育の質を高めて参りたいと思えます。

「子どもの育ちを願って」

山梨英和プレストンこども園 早川 江里子

山梨英和プレストンこども園では、コーナー遊びを楽しむ子どもたちのにぎやかな声が響いています。各コーナーでは、季節ならではの製作や子どもたちが思いや意見を出し合って展開していくもの、保育教諭が子どもたちの育ちを考えて仕掛けていく遊びが設定されています。その中で主体的になって遊ぶのは子どもたちで、保育教諭はその仲間となって遊びます。ひとりでも、友だちと一緒にでもじっくり遊べる時間を大切に考えます。好きな遊びを見つけて子どもたちが夢中になって楽しみ、

満足するまで遊ぶ姿を見るとわたしたち保育教諭も幸せな気持ちになります。

園には、自然と触れ合うことができる遊び場としてビオトープがあります。子どもたちはビオトープが大好きです。トンボや蝶を見つけ、足を止めて飛び交う様子をみたり、虫を手の平に乗せて観察したりと興味津々です。また、いちじくの木に登ったり、池のメダカを観察したり、ラベンダーの香りを「いい匂いにするよ」と伝え合うなど、心地よい雰囲気の中で過ごします。こうした身近な自然環境の中で、子どもたちの豊かな感性が育まれていくことを願っています。

また、月に一度森へ出掛けます。広い森の中、遊具がない場所でも子どもたちはどんどん遊びを見つけていきます。森には英語講師も一緒に行き、絵本を読み聞かせてもらったり、手遊びをしたり、遊びの中で英語に触れる機会を持ちます。他にも、小川でザリガニ釣りをしたり、葉っぱの色の変化に気付いたり、長い枝を集めて焚き火ごっこをしたり、大きな倒木を見つけて登って探検が始まりません。季節の移り変わりを肌で感じて体験し、自然の恵みに感謝してお祈りする心も大事にしています。

今後も子どもたちと心通わせ、見ている世界を共有し共感し合う者でありたいと思えます。そして、子どもたちの成長に心動かし、目に見えないものを大事にして歩んでいきたいです。



新たな扉を開けて

八代花鳥保育所 野川直子

主任保育士になって二年目の春、前任の会長より笛吹市保育協議会保育士部会の会長という大役を引き継ぎました。

前例にならない各種会議等を開催しようとしたのですが、新型コロナウイルス感染症流行のため、会場の利用人数及び時間の制限があり行えませんでした。マスクの着用・ソーシャルディスタンスを守る事で、ようやく理事会の実施にこぎつけました。「この先一体どんな風に進めていったら良いのか。」と不安を抱えたスタートでした。その後の理事会で今後の活動について他四名の理事と協議を重ね、主任保育士視察研修は参加される先生方の健康を考え、泣く泣く中止とし、保育士研修については、何とか開催したいという思いが強く、例年六月に実施していたものを九月に延期するという判断を下しました。ところが九月になってもコロナの終息は見えず、保育士研修の実施が危ぶまれた為、理事が知恵をだしあい、研修内容を録画し、各園でそのDVD視聴を研修に替えてはと提案しました。笛吹市保育協議会会長にご承認頂き、講師の先生にもご協力頂き制作していく運びとなりました。

「〇〇だからできない。」で終わるのではなく、できることを事を考え取り組む事で新たな研修の扉を開くことが出来ました。



コロナ禍に思う

常葉保育所 望月みさ子

幼い記憶の中に、母が作ったほうとうや蕎麦がある。カステラや、桃の節句には蓬のあんころ餅。材料はすべて自家製。大豆から作る味噌や豆腐の味。あたりまえに食べていたものが、今になってどれだけ尊い品々だったか。

保育所でも、食育活動として、子ども達と八重桜を塩漬けし、年長児とのお別れ会に、ひと足早い春を感じてもらおうと、シフォンケーキに入れたり、梅ジュースを作り、夏まつりでのかき氷のシロップとしても利用した。野菜や栗の収穫体験。クッキーやナン作り。小正月の団子作りや、味噌作りも行っている。中でも、自分たちで育てたあけぼの大豆を収穫しての味噌作りは、興味深く、張り切って作業をする。町の特産品として、知名度も上がってきた事もあり、親しみもあるのだろう。

日頃から、保育現場でも感染症予防として除菌は欠かせない。また、いかに免疫力を高めていこうかと試行錯誤の繰り返しだ。赤ちゃんは産まれるとき、母の産道で初めて雑菌のフラッシュを浴びると聞く。母の手のひらには、大切な常在菌があるとも。その手のひらで作るおむすびや味噌は、まさに常在菌の宝庫。何にも代えがたい大事な免疫力がある。

コロナ禍の今、新しい保育所生活の在り方を考え直したり、改革していかねばならない。ただ、今も昔も変わらず大切なのは、豊かな心と丈夫な体で、生きる勇氣と知恵を身につける事。核家族・ひとり親家庭・共働き等と保育時間も長くなり、家庭の躰も疎かになりがちな時代。加えて自粛のあまり孤立する家庭・虐待問題等々。保育所の担う課題は、山積するばかり。

幼い頃の体験が、生きる力の原動力となり、今こそ、記憶に残る保育を模索していきたい。

「子どもの良質な睡眠を導く継続的取り組み

「保育所から子ども家庭への働きかけ」

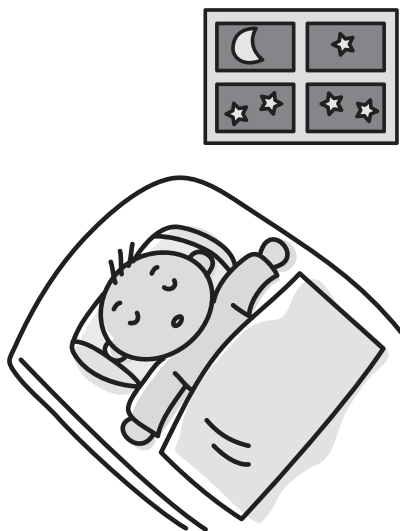
久那土保育所 笠井 美奈子

令和二年十月八・九日、青森県で開催予定でありました、第五十四回全国保育士会研究大会は、新型コロナウイルス感染症の影響をかんがみ、標記研究大会が「開催中止」と決定されました。その通知が、郵送されて来たのは六月初旬でした。全国保育士会では、協議を重ねての止む負えない決断だったことでしょう。私たち峡南地区保育士会研究委員会は、この大会での発表に向けて研究を進めてきただけにとても残念な思いでした。コロナウイルス感染拡大防止の対策を取りながら研究委員会の開催をしなければならなかったので、思うように進められないことで不安と焦りの日々でありました。でもそこは研究委員全員の力を結集することで、八月下旬に完成原稿を提出することができました。充実感と安堵の気持ちでいっぱいでした。十月に入り、研究紀要の校正の確認をし、冊子の印刷。十二月に発行のはこびとなりました。

私たち峡南地区保育士会は、子どもの「質の良い睡眠」に焦点をあて、平成二十六年から令和二年の七年間に渡り、一年ごとに多様な実践を積み重ね、保育所（園）の子どもたちに働きかけをし、保護者の皆さまには睡眠に関するアンケート調査、早起きチャレンジ（早起き・早寝の習慣づけ）などの協力をして頂き、睡眠について理解を深めてもらうための情報提供をするなど、連携を密にとりながら研究を進めました。同時に、多くの大学教授、医師による講演会や研修会を開催し睡眠に関しての知識を深めてきました。本研究の論文を作成するにあたり、「保育の質を高める実践研究の手引き」を熟読し、様々な先行研究を調べ、助言者であります大方美香先生より睡眠は早起き早寝がうまくいかなくても睡眠の深さ＝睡眠の質が大切であるなどの助言をその都度いただき、更に研究を深めていくことができました。保育の質を向上させるには私たち保育士は、日常の当たり前に過ぎていくことに「課題意識を持って保育

（考察）」していくことにあります。気づきこそが研究の第一歩であるということをお肝に銘じ**保育の気づき**を大切にし、今後も子どもたちの健やかなる成長のために努力していきたいと思えます。

最後になりましたが、『子どもの良質な睡眠を導く継続的取り組み』保育所から子ども家庭への働きかけ』の論文を完成させるにあたり、丁寧なご指導とご助言をいただきました。大阪総合保育大学大学院教授大方美香先生、また、山梨県立大学人間福祉学部人間形成学科教授高野牧子先生には深く感謝申し上げます。そして、本研究の趣旨をご理解いただき快く協力して頂いた、保護者の皆様にも心より感謝申し上げます。



夜は早く
ねまじょう

大切にしていること

早川町立南保育所 望月玄太

保育士として働いている中、特に大切にしていることがある。それは、個性を尊重するということだ。私は保育士として働く前、障害者支援施設に勤めていた。そこでは様々な利用者がおり、一人ひとりの個性を尊重し、ニーズに応えられるよう支援方法を工夫していた。それは保育にも当てはまるものであり、子どもたちはそれぞれに素晴らしい個性を持っている。走るのが好きな子、歌うことが好きな子、食べることが好きな子。好きなことという点に関してだけでも様々である。そんな個性を尊重するということは、一人ひとりをよく観察し、理解していることが必要であると考えている。日々の子どもたちとの関わりの中で一人ひとりに対し理解を深めていくことを大切にしたい。

また、もう一つ、今年からより大切にしていることがある。それは保護者とのコミュニケーションだ。今年子どもが生まれ父となったこともあり、今まで以上に保護者の目線に立って考えるようになった。保育所とは子どもにとって初めて触れる社会であり、保護者にとって初めての社会という場に子どもを送りだす不安は大きいと思う。登降園時や行事の際など、日々のコミュニケーションを大切に、安心して大切な子どもを預けていただけるよう、今まで以上に保護者との関わりも大切にしていきたい。

保育所という子どもたちにとって初めて触れる社会という場の中で社会性を養い、一人ひとりの個性を尊重し愛情を注ぐことで自己肯定感を持つてるよう、まだまだ保育士としても保護者としても未熟な私だが、子どもたちの笑顔と未来のために全力を注いでいきたい。そして、子どもたちと共に私自身も成長していきたい。

コロナ禍の中での運動会を終えて

ひまわり保育園 坂本精子

気持ち良い秋晴れの下、秋季運動会が開催されました。「元気なみんなに笑顔でエールを！」のテーマのもと、各クラスお遊戯をしたり競技などを楽しみました。

今年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、全体の時間を例年の半分に縮小したり、様々な対策を練った運動会でした。種目も三密を避けながら出来るものに絞り行いました。種目数も減ってしまいました。そんな中でも子ども達は自分の力を出し切って、一人一人笑顔で元気いっぱい頑張り、とても良い忘れられない運動会になりました。

私は今年度3歳未満児クラスの担当をしています。親子遊戯は行わず保育者と子どものみで踊りましたが、題名のカニになりきって踊り、愛らしい姿を見てもらうことが出来ました。

3歳以上児クラスの子ども達は人数限定で観覧した保護者に見てもらうことを楽しみに、マーチングバンド、マットとび箱運動、クラスのお遊戯、リレー競争などに力を入れて頑張りました。どの子どもも真剣そのもので特にリレーでは広いトラックを真剣に走り、バトンをつなぐ姿はとても見応えがあり感動しました。

閉会式でプレゼントの「宝袋」担任からの「手作りメダル」をもらった子ども達はキラキラと輝いていました。やり遂げた達成感でどの子どもも笑顔がいっぱいでした。

今回は新型コロナウイルスや熱中症に十分配慮しながらの運動会となりましたが、参加者全員が喜んでいる姿を見ると、無事運動会が出来たことをうれしく思いました。

保育園は一年を通して行事がたくさんありますが、今後も新型コロナウイルスに注意しながら子ども達が輝けるように全職員で協力して頑張っていきたいと思えます。

葦崎市

保育士になって思うこと

葦崎東保育園 中島 英理紗

私が保育士になって六年が経ちます。子どもたちの成長の手助けをしたいという思いで保育士になりましたが、いつしか日々の業務に追われ、あのとときの保育の仕方は合っていたのかと自問自答する日々です。

あるとき、お世話になった先生の言葉を思い出しました。それは、保育者の人格の大切さという内容でした。自己肯定感の低い大人は子どもの前では支配的になる、もしくは共依存の関係を作りだそうとすることでした。大切なことは、保育士である自分自身への誇りや、様々な経験からの心の豊かさが質の高い保育に繋がると教えて頂きました。まずは自分自身を見つめること、経験を積み心を豊かにすることも大事だということに気付かされました。

今年私は三歳児の担任をしています。保育する中で、自分の気持ちがうまく言葉にできない子や言葉が強すぎてしまう子など、友だちとの衝突する姿が見られます。人との関わりを学び成長していけるよう、保育士としてどのような関わりをするのが良いか考えながら日々保育するよう意識しています。そして、子ども自身自立していけるような関わりを心掛けています。保育する中で多くの壁にぶつかりますが、自分自身のことを見つめることも忘れないようにして、保育の質を高めていけるようにしていきたいです。

今まで保育をしてきた中で、子どもたちの可能性はもろろんのこと、保育の仕方も無限大だと感じてきました。保育士として、まだまだ未熟者ですが、一つ一つの出会いを大切に、間近で見られる子どもたちの成長や保護者の方からの感謝の言葉、先生方のアドバイスを糧に、保育や自分自身を磨いていきたいと思っています。

県内発表に向けて

葦崎東保育園 望月光美

令和3年度の県内発表に向けて委員会が立ちあがり2年目を迎えました。各保育園の代表が8名と相談役が1名の9名の委員が顔を合わせたのは令和2年6月4日のことでした。今までも関東ブロック研究会や県内発表委員会の部員として参加をしていたことはありましたが、委員長という立場を経験するのは初めてで、自信もなく困惑していたのを今でも思い出します。その時、修道者の渡辺和子さんの言葉を思い出しました。「置かれた場所で咲きなさい」という言葉でした。咲くということは、仕方ないと諦めることではなく、自分が笑顔で幸せに生き、周囲の人々も幸せにすること、咲けない時は無理に咲かなくてもいい、根を下へ下へと降りし次に咲く花がより大きく美しいものとなるために努力すること。この言葉は、常に私の心の中にある。どのような場面でも私を励ましてくれる言葉でした。県内発表の代表は9名でしたが、部員は各保育園の保育士全員であることも励みになりました。保育士一人の力は小さいものだけど、保育士同士の力が集まれば大きな力になり、どんなことだって乗り越えられると信じていた部分もありました。研究が思うように進まず、足踏みをしてしまった時期もありましたが、そこには必ず助言をしてくれる園長、主任、声をかけてくれる仲間がいました。また、各保育園の代表委員には資料収集、園内の実践記録のまとめ、資料作り、パワーポイント作成など本当に感謝をしています。今回の研究を通して、子どもたちの成長に寄り添い、現状に真剣に向き合えるよう、さらに自己研鑽を積んでいきたいと思っています。



アレルギーっ子を育てて

すみれ 葦崎保育園 宮 津 順 子

「やっぱりなあ。」

生まれてからの肌の調子と十か月の時に離乳食後、初めてじんましんが出た時から、ある程度の覚悟はしていた。「食物アレルギーだね。」大豆、小麦、卵、牛乳、牛肉、鶏肉、赤身の魚、青魚、ゴマ、そば、ピーナッツなどなど、アレルゲン盛りだくさん。お医者さんの宣告を聞いてがつくり来てしまった。でもよくよよしてはられない。出産した病院にいた先生がなんと食物アレルギーの権威で子どもアレルギークリニックを開院したばかり。まさにタイムリーとポジティブに受け止め、わりにもすがる思いで一歳三か月から除去生活を開始した。食事は生命の営み、人間の三大欲求の一つ、しかも我が子は食いしん坊ときた。からだを作る時期でもあるし、栄養が十分に取れ、アレルギー症状が出ないように、しかも美味しく作らねばと、一日中食事のことを考えて、食事作りに追われた。

入園した当時の保育園では始めは対応できないと、給食を真似たお弁当を持参していたが、出来ることはしてあげたいと先生方が親身になって下さり、食べられる物を出してくれた。小学校は給食費の関係で、保温弁当箱に入れて、出勤前に職員室に届けて預かってもらった。それが五年生の六月まで続いた。五年生は一泊で自然教室がある。何とかそこまでにみんなと食事ができるようにと、負荷試験を行い、結果は解除となり現在に至っている。憧れだった、ゆで卵を食べた時は、「思っていたより美味しくない」と残した長男。そんなものだよなあ。現在は何でも食べているが、花粉の時期や調子が悪い時は食べると違和感があるようで、自分で調整している。

大変だったねと言われるがそうでもない。何でも食べられる今より、からだによい物を与えていた時の方が良かったかとも思ったりもする今日である。

コロナ禍で気付いた今までの日常生活のありがたさ

葦崎東保育園 早 川 美 香

新型コロナウイルス感染症の世界的な大流行、パンデミックの真つ只中、今年度がスタートしました。世界的にも今まで経験したことのない状況下、我が国でも緊急事態宣言が出されました。そして小・中・高校で長い休校措置が取られる中、保育園は開園を続け、在宅勤務、分散勤務と今までは考えられない勤務体制がとられました。また、世間では社会的距離、マスクや手指消毒の義務付け等、新しい生活様式を取り入れ感染を広げない対策を、一つ一つ確認しながら日々子ども達の保育にあたりました。

その中で、私が最も違和感を覚えたのは「社会的距離」を保育に取り入れざるを得なかったことでした。「人間は社会的動物である」と言われます。社会的距離をとった子ども達は、手を繋ぐこともできず、大きな声で歌を歌うことも出来ません。0・1歳児の食事で言葉をかける際「大きなお口を開けて」「あーん」と口を開けた姿はマスクで見せることも出来ません。このような状態の中、行事を進めるために会議を開き、密になつてないか、このくらい距離を取ればいいのか等、感染を防ぐための動きを確認しました。

手を洗う時には間をあけて並ぶよう目印をつけた上で声をかけ、食事はテーブルに座る人数を制限する等、本当に考えさせられる日々でした。最も多感な時期に人と距離を取ることを教える保育とは何でしょう。一刻も早いコロナ禍の終息を願うと共に、普通のことを普通に出来た今までの日常生活のありがたさに気づきました。

北杜市

「子ども達の育ちを願って」

小淵沢西保育園 出羽 真知子

今年度スタートして間もなく新型コロナウイルスの影響で、緊急事態宣言が発令され、保育園も自粛期間が長く続きました。進級式を行わなかったこともあり、保護者は新担任と面識がなく不安そうで、子ども達の中にも一つ大きいクラスになった実感がわかないといった様子も見られました。自粛中、登園していた子どもも活動が制限されたことが多かったです。

今年度の市保育協議会での研究内容についても随分考えました。自粛中、戸外でのびのび体を動かせない状況を考え、室内でも楽しんで体を動かそう。体幹を意識した体づくりをテーマに取り組むことにしました。子ども達の運動機能の低下を防ぐことや発達に目を向けられる良い機会になっています。今後も子ども達を取り巻く環境の変化に目を向け、子ども達の成長に何が必要かを考え取り組みを進めていきたいと思っています。

自粛期間が終わり、子ども達が揃って園生活を送るようになってから、あることに気づきました。今まで、保育者の指示が通らなかつたり、自分の気持ちが入りきり替えられず、思い通りにならないと長い時間泣いたりしていた子が、クラスの中で目立たなくなり、担任の先生の話しかけを聞き入れて、行動するようになったのです。自粛期間、休んでいたほとんどの子に落ち着きが見られるようになったことに驚きました。進級し、環境が変わったことも影響していると思いますが、他のクラスの状況を見ても休んでいた子は家庭で親子の関係が深まり、満たされたからではないかと感じています。保育園でも子ども達の気持ちに寄り添うように関わっていますが、家庭でじっくり関わってもらえると育つ部分もあるのかなと思います。保護者の生活が保障され、家庭との関わり

も尊重してもらえらるる社会になることを切に願います。

子どもの育ちを願って

長坂保育園 利根川 典子

発達心理学の世界でたびたび問われる遺伝説と環境説。人間形成において、個人の気質（性格）は生得的なものから生まれるのか、経験から生まれるものなのか、これを二〇〇〇年前のプラトンやアリストテレスなどの偉人までさかのぼり論争してきたと考えると、人間は実に複雑であり、面白い生き物だと感じる。

私は大学時代心理学を学び、幼児の発達心理に特に注目してきた。その中で一番関心を持ったのが「相互作用説」である。その名の通り、人の行動発達や性格形成を考えると、生まれつきの気質と、その子どもが育つ環境は相互に影響されるといったものである。

保育士に就職する前、私は青少年教育施設に勤めていた。そこで出会ったのが「体験が人をつくる」というスローガンであった。様々な体験活動を通じ、そこで得た気付きや発見を自分の経験＝財産として積み上げる。そしてその経験は、個性となり、よりよい発達に影響を及ぼすといったものだ。これを現場で目の当たりにしたとき、保育の世界でも活かすことができるのではないかと思い、保育士を目指したのをよく覚えている。

保育士となった今、自分にできることは何なのか考える毎日。今年度、三歳児の担任をしているが、泥水遊びをしたり、ルールのある遊びと一緒に楽しんだり、一日一つは新しいことに挑戦する時間を設けるようにしている。「やってみなくちゃわからない！だから挑戦してみよう」という前向きな心を養っていけるよう子どもと向き合い、援助していきたいと思っている。子ども達が「今日は何をやるんだろう？」とワクワクした気持ちで登園できるように、日々保育に励んでいきたい。

「祖母を想いこれからの自分を思う」

いずみ保育園 平井良枝

今年、新型コロナウイルスの流行の影響で自粛し、我が家では四年前に亡くなった祖母の部屋の整理をした。祖母は、四十年程高校で茶道の講師をし、地域の方との繋がりを大切にしていた。デジタル化が進む時代だが、書類、参考書、日記が引き出しや箱に丁寧に納められていた。物事に対する向き合い方、人に対する優しさ、常に前を向き学ぼう、生きようとする姿勢など片付けを通し、感じるものがたくさんあった。茶道顧問の先生からいただいた手紙もあり、生徒と同じ目線で、心から茶道を楽しむ姿、自然の振る舞いの中にも人としての温かさなど茶道以外の所でも学ぶことがたくさんあったと感謝の気持ちが綴られていて祖母の偉大さを改めて感じた。祖母の写真を見て今の自分を振り返ると、保育者として様々な人との出会いの中で成長させてもらいここまで続けてこられた。

今年度0・1歳児担任となり、子ども達の「初めて」に立ちあうことが多い。子ども達の園生活6年間の成長は大きく、その原点ともいえるこの年齢を、子どもや保護者の気持ちに寄り添い安心できるように関わる中で、日々成長し、変化する子どもに対して、一人一人に合ったものを提供できるように話し合い、保育を進めている。先輩保育士や栄養士の方々の話の中で学ぶことは多く、今の子ども達への丁寧な関わりが、今後の成長へと大きくつながっていくと思う。

一人一人の子どもの発達段階を理解し、活き活きと過ごせる環境作り、先生と一緒にいるとなんか楽しく、安心して色々なことに挑戦したくなる、そんな存在でありたい。祖母の生き方を通して、専門性、人間性を高めながら、これからも大好きな子ども達と関わり、保育者として前に進んでいきたいと思う。

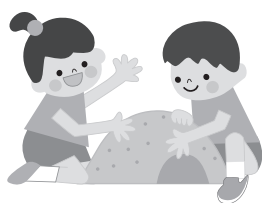
子ども達の発想力

三葉保育園 山縣美月

私が毎日保育をしていて感じることは、子ども達の発想力は無限大だということ。室内遊びでは、ブロックを積み上げたり、くつつけたりと色々な形を作り「これは、メガネだよ!」「これは、電話だよ!」と作った物を教えてくれたり、おままごとでは、「今日はお誕生日だからケーキを作ってあげるね!」とケーキを作ってくれ一緒に遊んでいた友だちが「じゃあ、ジュースを作るね!」と友だちと協力しておままごとをして遊んでいます。粘土遊びでは、「卵!」「へび!」と言いながら作っていて中でも一番驚いたのは「懐中電灯!」でした。戸外遊びでは、ジャングルジムで「ここはお家!」すべり台を指さして「あそこは、お店!」砂場は「公園!」とオリジナルの町を想像して友だちと先生と楽しそうに遊ぶ姿が見られます。遊びを通して「この玩具でこういう遊びをするのか。」と感ずることがたくさんあり驚かされてばかりです。

大人になるとこの玩具はこの使い方と先入観がありますが、子ども達も1つの玩具を使いたくさんの遊びに繋げることができ、私自身も子ども達を見習いたいと思います。

子ども達一人ひとりの発想力は、私が思っている以上のことがたくさんあるので、子ども達と関わる中で、私も子ども達の驚きや興味を惹かれる活動を行えるようにしていきたいと思えます。そのためにも、毎日子ども達と全力で遊び、遊びについて深く学びたいと思えます。子ども達が「今日はどんな遊びをしよう」とワクワクな気持ちで登園してきてくれるように、これからも子ども達の発想力に目を向けて保育に携わっていききたいと思います。



『子どもたちと作った夏の思い出』

～お祭り～

富士吉田市立第五保育園

和 光 典 子・宮 下 杏 莉

「密ですよ。」「ソーシャルディスタンス！」と、今まで使われることのなかった言葉が飛び交うようになりました。新しい生活様式を取り入れ、気を付ける日々が続いています。楽しみにしていた例年のイベントも中止。というショッキングな事実。納得せざるを得ない状況であることは理解できました。それなら出来ることを出来るようにしよう！「お祭りごっこ・縁日ごっことして楽しもう！」と声があがり話し合いが始まりました。みんな大喜び。「法被着たいよね。」「ゴリラパンダも踊ろっか。」とゼロからのスタートでお祭りごっこが始まりました。

食べ物屋さん・おもちゃ屋さんを組み合わせて三日間の開催が決まりました。今年は一味違うお祭り。年長児は今まで経験のないことに挑戦！まず、法被作りをしました。家に持ち帰り親子で模様を考え飾りを作り、世界に一つだけの法被が出来ました。お店の紹介や「盛り上がりつついきましょう」の掛け声のアナウンスも担当しました。その他、子どもの足型を使ったソーシャルディスタンスプレート・親子で撮影のできる写真スポットの製作・全園児の手形を花火に見立てた飾りも大好評でした。準備から当日までの様子は、写真を掲示し雰囲気伝わるように工夫しました。

この行事を通して、子どもが企画から準備し、自分たちが決めたことが形になる面白さと達成感が味わえたこと、同じ目的に向かって行動できたことで、より一体感が増したクラスに成長できたと感じました。お祭りごっここの事が子どもたちの会話に出てくると、大成功だったなあ！と心の中で喜んでしまいます。次は「こんなことしたいね。」と可愛い

子どもたちと考え中です。

「子ども達にとって良い保育とは」

富士吉田市立第三保育園 渥 美 千 春

各地で猛威を振るう新型コロナウイルス。二〇二〇年は、いつもの保育園生活が奪われました。長い間保育に関わっている私達でも、こういう状況で保育を行うのは初めてのことです。今まで当たり前に出ていた事が当たり前ではなくなり、未知のウイルスとどう向き合っていくのか、職員一丸となり保育の見直しをしていきました。

一番大きく変わった所は三密を避ける為、行事の延期、中止を余儀なくされたことです。これは保護者や子ども達だけでなく、保育士にとっても本当に肩を落とすような決断でしたが、まずは子ども達の園の生活、命を守ることを優先し、新しい生活様式へと切り替えました。限られた状況下の中で保育現場では子ども達の気持ちを一番に考え、楽しい思い出を作るように検討や工夫を重ねている所です。また例年なら行事は保護者と一緒に子ども達の成長を感じる機会ですが、今年はその難しいのが様々な形で子ども達の様子を伝えていきます。例として、誕生会は戸外で行う内容にし、のびのびと楽しんでいきます。夏祭りは中止になったので保育の中で一週間お祭りごっこを計画しました。また保育内容を検討し直し、色々な経験が出来るよう工夫しました。絵具遊びでは子ども達の意見を取り入れ、Tシャツ染めへと発展し、運動会で披露する事ができました。

今コロナ渦の保育現場では、悩みや葛藤など不安な事が多いですが、従来の保育、行事を見つめ直す良い機会だと前向きに考えています。制限される中でも「出来ない」と決めつけるのではなく、感染対策に気を付けながら、子ども達にとって良い保育が出来るよう、保育士間で話し合いを持ち創意工夫をしていきたいと思っています。

「母として、保育士として」

富士吉田市立第四保育園 桑原 早希

「子どもが好き。」という、何ともありきたりな理由で保育士を目指しました。卒業後は施設へ勤務し、娘の出産を機に退職。専業主婦をしながらもう二人の娘も生まれ、三姉妹の母となり、三人の娘が保育園へ通うタイミングで社会復帰しました。私は、現在0・1歳児の担任をしています。色々なことが出来るようになり、子どもたちの成長は目まぐるしく「子どもってすごいな。」と関心させられる毎日です。子どもたちは、まだ自分の気持ちを上手に表現できないため、受容したり共感しながら「そうだね。○○だね。」と代弁できるような心がけています。また、子どもたちをよく観察し、目の前の姿だけにとらわれず「なぜ?どうして?」と疑問を持ちながら保育するようにしています。

仕事と子育ての両立は想像以上に大変です。上手いかなんかこのほうが多く、娘の寝顔を見ては、反省する毎日です。そんな時、娘を保育園に迎えに行くと「こんにちは。」と明るく挨拶をしてくださる先生方。娘の連絡帳を見てクスツと笑ったり、「こんな事も出来るようになったんだ。」と娘の成長を感じると疲れも吹っ飛んでしまいます。先生方を信頼して娘のことを相談できるのも、そういった日々の小さな積み重ねだと思います。私自身も保護者の立場に立ち、共に子育てしていくことを楽しめるように、保護者への支援も忘れず寄り添っていきたいです。

社会復帰したときに三か月だった娘も、もうすぐ一歳半になります。仕事と子育てで大忙しの毎日ではありますが、大好きな子どもたちに囲まれ、保育士という仕事は私にとってかけがえのないものだと感じています。専門的な知識や技術は未熟者です。一緒に働く先生方から多くの事を学び、これからも子どもたちの成長を見守っていききたいです。

前向き・笑顔・チャレンジ

富士吉田市立第四保育園 渡辺 規子

富士吉田市保育協議会は、公立七園・私立一園・マザーズホーム(心身障害児通園施設)から成り、会員数一九三名で構成されています。今年度は感染拡大防止の為、四月の定期総会は書面決議となりました。毎年実施していた事業内容の見直しで、研修は中止・情報共有する場としての学習会や会議・保育研究委員会・給食部会は、新しい生活様式に合わせ工夫しながら実施してきました。そんな中でも、各園ではウィズコロナの時代で保育園生活をどうしていくべきか?どんな楽しみ方があるのか?を園内で考え工夫していました。

研修の開催がほとんどなくなり、私の園でも『園内学習会』を計画的に行えるように取り組んできました。嘔吐処理・指導計画・防犯などの確認しておきたい内容の他に、言葉の遅れについて・食育など、どう考えているのか?どんなことに悩んでいるのかなどについても話せる場として活用しました。日々の保育で毎月一回三十分という時間を設け、どのように進めていけば良いのか毎回悩み反省する中で、会議を通して職場の雰囲気を作ることの大切さを再認識しています。

知識を伝えるだけでなく、保育士が意見を交わし合い、否定されず受け止めてもらえる関係の中で、子どもの見方や理解を深めていき、みんなで作りに上げるという意識でベテランと若手が一体となったチーム作りを目指したいと思います。

今年度は、健康の大切さを痛感し、心と体のケアや保育環境・保育の質の向上を考える一年となりました。子どもたちの笑顔は、みんなを笑顔にしていける力になります。各園一丸となって、次年度に向けても取り組んでいきたいと思えます。



歳を重ねて感じることゝ巡り巡ってゝ

船津保育所 渡辺真理

今回、「やまじ」へ投稿するにあたり、初めて本誌へ投稿した頃の自分のことを思い出しました。保育士四年目の事でした。あれから、もう二十数年も時がたちました。プライベートでは花の独身時代から結婚し、三人娘の母親となる一方、仕事では頼れる先輩たちに見守られながら、担任保育士として、可愛い園児たちと共に成長する中で、保育を語る良い仲間ができ、気づけば後輩ができ、あっという間に所長をサポートしながら後輩たちにアドバイスをするという重要な立場になっていました。

いま、歳を重ねる中で振り返ると、まだまだ未熟だった頃の私が些細な事で、どうしたらよいか？と悩んでいた事を思い出します。そんな時には、先輩保育士が「やってみればいいよ。」と背中を押してくれました。そして、必要があれば助言して下さり、いつも見守ってもらえている安心感の中でやってきていたように感じます。そして、どの時代も自分なりに一生懸命に、一番良いと思う方法を選んできたつもりでいます。立場が変われば、悩みも保育の目線も違いますが、「どんなことでもやってみよう。」という思いは一緒かな？と思います。「子どもの為に！」と試行錯誤を重ねて挑戦できたことなら、それは子ども達にとっても、保育士自身にとっても大切な経験と学びになります。今、後輩たちを見守る中で若かりし頃の自分と重なっています。

私も私の先輩方のように、後輩たちのそんな挑戦に背中を押してあげ、優しく見守ってあげられるようになっていきたいと思います。

初心を忘れず

大石保育所 菊地真由美

幼い頃からの夢だった保育士になって早二十年。この二十年の間に自身自身の環境も、そして子ども達をとりまく環境もめまぐるしく変わってきた。

これまでを振り返ると、先輩保育士の保育を見よう見まねで取り入れ、必死で子どもたちと向き合った新人の頃。いろいろな経験や失敗をくり返しながら自分なりの保育が少しずつ見えてきた頃。いつの間にか中堅、ベテランと呼ばれるようになり、まわりとの連携や支え、助け合いの中で日々子どもたちの成長に感動を覚える今。

時代が変わっても、私が保育をする上でずっと心がけている事がある。それは「自分の子どもだと思って、自分の子どもがされて嬉しい事を保育で実践しなさい。」私が新人の頃、先輩保育士に言われた言葉だ。保育指針が改定され、高い保育水準と充実した子育て支援、長時間の保育が求められる今、忙しい日々の中でつい忘れそうになってしまいが、そんな時こそこの言葉を思いだすようにしている。

親として、子どもの成長が嬉しい。親として、子どもが笑顔で楽しく園に通ってくれると嬉しい。親として、園での子どもの姿が知れると嬉しい。親として、子育ての相談や悩みが聞いてもらえると嬉しい。

保護者が笑顔でいられる事が子どもたちの笑顔へとつながり、子どもたちの健やかな成長が保護者の笑顔や明るい未来へとつながる。これからも初心を忘れず、笑顔であふれた保育を私はしていきたい。



近隣火災からの避難を経験して

小立保育所 古谷 華奈子

八月十八日十五時過ぎ、おやつの間だった。建物火災を知らせる町役場のサイレン放送が鳴ったのでよく聞こうとペランダに出た。辺りを見渡すと園舎背後に凄まじい黒煙が広がっていた。すぐさま子どもたち「近くのおうちが火事だからヘルメットを被って外に避難しよう。」と指示した。子どもたちもただならぬ状況である事を察知したのだろう。おやつを中断し恐怖の余り泣き叫ぶ子どもも多かったが、自分のヘルメットをロッカーに取りに行き、一生懸命被った。私自身初めての経験であり、不安になったが平静を装い「大丈夫だよ。先生達が守ってあげるからね。おうちの人もちゃんと迎えに来てくれるよ。」と少しでも子どもたちが安心できるように声を掛け、安全に誘導する事に集中した。

出火元から一番遠く離れた園庭の西門まで避難したものの、風が強くと黒煙が近づいてきており、煙を吸う危険性があった為、保育者間で話し合い、近くの小学校へ避難する事にした。その際、子どもたちを誘導する保育者と、保育所に残り、迎えに来た保護者に伝える保育者とに分かれた。小学校に向かっていると、火災の様子を校舎の窓から見ていた先生達が保育所の避難に気付き、道路まで出てきて誘導してくれた。炎天下の中、校庭で保護者のお迎えを待たせる訳にはいかないと、冷房をつけた部屋を用意してくれた。とても有難かった。

毎月1回の避難訓練の甲斐があり、子どもたちもヘルメットの被り方や避難の仕方を体で覚えており、しっかり保育者の指示に従う事ができた。今回の経験からは避難訓練の大切さは勿論、保育者間の連携や緊急時での瞬時の的確な判断の必要性を学んだ。これらを今後の保育にも活かし、安心・安全を心がけていきたい。

保育士になって

富士ヶ嶺保育所 在原 智美

保育士という仕事は、私の幼い頃からの夢でした。その夢が叶った時、本当に嬉しかったことを今でも覚えています。

しかし、働いてみると他の先生方にたくさん迷惑をかけ自分の知識・経験不足を痛感しました。実際の保育の現場では、教科書に書いていない事・実習だけでは分らなかった事が毎日のようにあり、保育の難しさを身をもって経験しました。

ただそのように、保育の難しさに悩んだり、自信をなくしたり落ち込んでいる私に明るく前向きな気持ちになる力をくれたのは子どもたちの笑顔でした。可愛い笑顔で「せんせい」と呼ばれると、自然と心が救われます。そしてその笑顔が、まだまだ頑張らなくては、という活力を与えてくれます。

このように、悩んだりしながらも、保育の仕事の素晴らしさや保育士になってよかったと思う事もたくさんあります。なにより子どもたちの笑顔に毎日会えることが幸せだと思っています。保育士としてまだまだ私は、子どもたちから教えてもらうことも多く、失敗もたくさんありますが、仕事をしているときは笑顔を忘れずに過ごしていきたいです。そして他の先生方から吸収できることは吸収して、子どもと共に日々成長していける保育士でありたいと思います。



今、思うこと

大月保育園 今 泉 千恵子

昨年度末からの、コロナウイルス感染症における感染拡大に伴い、世界的に日常生活が一変しました。私達保育現場でも、登園自粛・休園等様々な対応が取られ、現在新しい生活様式とされる少々不自由な生活を送らなければならない状況に、日々頭を悩まされているところです。様々な自粛が解除されていく中、まだまだ安心して生活できる状況ではないのが現状です。今回のコロナ禍の中で、改めて保育園が社会的に大きな役割を担う必要な存在として再認識されています。完全に自粛できない家庭にとっても心強い大きな存在だったのではないのでしょうか。社会性の取得、豊富な遊び、言葉、バランスのとれた食事等提供すると共に、子どもの最善の利益、命を守ることを使命とする私達保育士でありますが、保育現場における保育士不足に続き、コロナ禍の今、限られた環境において保育するにあたり、子ども達との距離感に不安を覚えずにはいられません。保育園に子ども達の賑やかな声に戻ってきた分、子ども達の変わらぬ元気な姿と日々の成長を守るため、感染リスクが回避できない現状ではありますが、子ども達に接する際の心構えを含め、今後の保育の進め方を考えていかなければなりません。

今思うこと：命を守る局面では指示待ちではなく自分たちで判断しよう、保護者と園と一緒に前を向いて歩んで行けたら、そして一人でも多くの保育士が育成されることに期待します。

母として、保育士として

巖こども園 上 條 裕 美

出会いと別れを繰り返し、保育士としても二十二年が経とうとしている。そんな私も二児の母になり、今は仕事と子育ての両立で、世の働くお母さん達の大変さを身をもって感じている。子育ては決して楽しい事ばかりではない。それは分かっていた。でもそれは分かっていた。つもりであって、現実には甘くはなかった。産まれるまでは、とにかく元気に無事に産まれてくれれば良い。単純にそう願った。なのに大きくなるにつれ、自分の思い通りには行かず、イライラしたり落ち込んだりの連続。人は人、自分は自分と思っただけでもくらべてしまおう自分と、出来ない我が子を叱りすぎてしまったと反省する毎日。保育士だから自分の子も楽でしょと良く言われるが、園はたくさん先生が関わり、良い所を伸ばし、悪い所は職員同士で相談し、試行錯誤をしながら良い方向へ伸ばして行ってあげられる。でも自分の子はそうは行かない。家庭という小さな社会の中で良い事も、悪い事も教えて行かなければいけない。そして働かなければならないという現実の中で子どもを預かってくれる場所がどれだけ救われる事か知った。確かに私は保育士としての知識はある。しかし、保育士でもない、子どもと関わった事のないお母さん達は、私以上に不安を抱え悩んでいるんだろうな、と、はっ、とした。そして今までの自分の保護者への対応を反省し、どうしたら良いのか自分なりに考えた。子を持つ母として同じ立場のお母さん達の気持ちに寄り添って少しでも力になりたい。今の自分に何が出来るかは分からないが、私を助けてくれる職場の先生達の力を借りながら、自分が出る限りの子育てや保育をすればきっと相手にも伝わると信じている。生きて行く事も、働いて行く事も、育児も一人では出来ない。だからこそ、子どもでも大人でも相手を思い、信じられるような人でありたいと思う。

「子どもから学ぶ」

さくら保育園 戸田葉月

私が保育士になって二年目となりました。毎日子どもと一緒に沢山遊び、沢山笑い、時には叱ったり注意したりしますが、「一人ひとりに寄り添った保育」を目標にして日々学んでいます。

今私は、年長児九人の担任をしています。活発な子や落ち着いている子、友達と遊ぶのが好きな子や自分の世界で遊ぶのが好きな子といった九人の中でも一人ひとり全く違います。少ない人数だからこそ一人ひとりとして関わる事ができ、アットホームな保育ができています。子どもにとって安心できる場所であり、楽しく色々な事を学べる場所になっていきたいと思います。

私が保育士になってすぐの頃、「先生が怒っても全然怖くない」と言われ、自分の叱り方、注意の仕方を子どもたちが見直させてくれました。私が子どもたちに様々なことを教えていくと共に子どもたちから様々なことを教えてもらうことが沢山あります。子どもと一緒にいる時間が多いので毎日が学びで溢れています。また、大人になっても「ごめんなさい」と「ありがとう」が言えない人が沢山いる世の中であり、素直な気持ちですぐに言葉にできる人はもっと少ないと思います。なぜ「ごめんなさい」と「ありがとう」が大切なかを子ども達と一緒に考えてきました。思いやりの心は何歳になっても持ち続けてほしいと願っています。

大人の都合で子どもたちの育ちを妨げることがないように、一つの型にはめてしまうのではなく、しっかりと一人ひとりがのびのびと成長できるような子どもの発言や行動、または表情などから気持ちを理解して一人ひとりの良さに気づけるような保育士になっていきたいです。そして、私自身が子育てをする立場になった時に今学んだことが無駄にならないようにしっかりと胸に刻んでおきたいです。

保育の中で感じる言葉の力

上野原こども園 深須理絵

小さい頃から憧れていた保育士になり、楽しさの中にも悩みや葛藤とも戦う日々。その中でも、やっぱり大好きな子ども達の笑顔や声に癒され、助けられ、エネルギーをもらっています。

私は、日々の保育の中で言葉を大切にしようと思がけています。「おはよう」と挨拶する声。「先生」と叫ぶ声。いろいろな言葉を使ったコミュニケーションは、子ども達とやりとりを楽しむアイテムの一つ。応えることでお互いに感じられる安心感、信頼関係を築くこともできると思います。

以前四歳児を担当し、四月から全員でフラフープに挑戦。できないこと、苦手なことに挑戦するときに、「誰でも失敗はあるんだよ。でもね、失敗は成功のもと」を合い言葉に励ましたりすると、少し安心したように挑戦するようになりました。そして、できた時に「先生、できたよ」と目を輝かせて教えてくれる姿を見て、言葉は頑張る力を生み出すのだと感じました。

今年も0歳児のクラス担任になり、まだ言葉にならない子ども達ですが、動きを見て、表情を見て「○○したいの?」「できたね」「すごいね」と言葉に変えたり、褒めたり。すると、小さな子ども達もドヤ顔をしたり、目が輝いたり。ちゃんと気持ちを通じているんだと感じます。保護者の方に、日々の成長を伝えたり、たくさん言葉をお交わしたりすることで信頼関係を築き、心を開いてくれたり、喜びを分かち合ったりすることもできました。言葉の力のすごさを日々感じます。言葉は魔法ですね。これからもたくさん言葉のやりとりを通じて、心のつながる保育をしたいと思っています。



今年度は、コロナに始まり、コロナに終わった一年でした。まだまだ流行の最中ではありますが、これからは、コロナと付き合いつながりながら生活していくウイズコロナの時代になります。新しい生活様式の中で子どもたちの最善の利益を追求すべく、日々の保育を展開していきたいと思えます。

最後に、機関紙「やまじ」の発行にあたり、ご執筆いただきました会員の皆さまにお礼申し上げますとともに、コロナ禍にあつて、手探りの状態であつた保育士会事業にご理解賜りました会員の皆さまに心より感謝申し上げます。

令和二年度 山梨県保育協議会 保育部会役員名簿

● 部会長

長生 保育園 山本 亜紀子 豊富 保育園 長田 てるみ

● 幹事

日下部 保育園 小河 弘美

こたごんぽ 園 成島 晴香

● 副部会長

柏 とも園 広瀬 加奈 常葉 保育園 望月 みさ子

巨摩 保育園 保坂 えりか 須玉 保育園 仁科 みゆき

葦崎 東 保育園 早川 美香 上野 園 稲垣 理恵

八代花鳥 保育所 野川 直子 富士吉田市立 第四 保育園 渡辺 規子

船津 保育所 渡辺 真理



本年度よりこの「やまじ」「県保協だより合併号」もホームページでご覧頂けるようになりました。関係の方々への周知も願います。



保育士のうた
「私たちがいるんです」

作詞 桑田常子
補作 与田準一
作曲 長沢勝俊

moderato
mf

1 5 3
あひち おろへ いいい せうて らみん
ほほほ うらら ほほほ ららら とふみ ががが とんは ぐみか ままで すすす ー ー ー
とふみ りねち ににに まなみし まかなん ままじご まががう あああ ー ー ー るるる やよや ううう ににに ー ー ー
こここ どどど ももも たたた ちちち こここ どどど ももも たたた ちちち
みやあ らざし いした ききき つつめ くくぐ むむす あなあ なみな たのた にうに はたは
わわわ たたた ししし たたた ちちち ががが いいい ゐんるん ごごご すすす ー ー ー

保育士のうた

『私たちがいるんです』

一、青い空 青い空

ほらほら鳥が飛んでます
鳥に仲間があるように
子どもたち 子どもたち
未来を作るあなたには
私たちがいるんです

二、広い海 広い海

ほらほら舟が進みます
舟に港があるように
子どもたち 子どもたち
やさしくつむ波の歌
私たちがいるんです

三、地平線 地平線

ほらほら 道ははるかです
道に信号 あるように
子どもたち 子どもたち
あしたをめざすあなたには
私たちがいるんです

表紙写真説明

第55回 山梨県保育大会共催事業

第34回 いきいき写真コンテスト

上掲載写真

第1位作品

撮影者 志村 美咲さん

(韮崎市立すずらん保育園)

下掲載写真

第1位作品

撮影者 渡辺 淑子さん

(富士吉田市立第四保育園)

発行所 山梨県保育協議会
印刷所 有限会社東和プリント社
発行責任者 山本 亜紀子
発行 令和三年三月発行
第57号 やまじ

